日進月歩の不整脈治療

川上 大志

愛媛大学大学院 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座

近年の医療分野における専門分化と高度化の流れは非常に早い。テクノロジーの発達と共に、医療技術も格段の進歩を遂げた。循環器診療の中でも不整脈治療の分野は、特にその恩恵を受けていると言えるだろう。かつて頻拍性不整脈治療の主体は、抗不整脈薬による不整脈の抑制であった。これはあくまで不整脈の抑制であり、根本的な治療ではなく、また薬剤の副作用が問題となることがしばしばあった。しかし、カテーテルアブレーションの発展と普及により、多くの頻拍性不整脈の根治が期待できるようになった。その背景には、不整脈の回路を可視化できる3D マッピングシステムの開発や、より安全に高出力の焼灼を可能にしたイリゲーションカテーテルの登場など、アブレーション関連機器の発達がある。最近では心房細動に対するカテーテルアブレーションも盛んに行われるようになり、バルーンカテーテルを用いた新しいアブレーション方法も施行できるようになった。

一方、ペースメーカに代表される徐脈性不整脈に対する治療も劇的に進歩している。各デバイスの電池寿命は年々延長し、形状も小型軽量化がなされている。また、突然死を引き起こす心室性不整脈に対する植込み型除細動器や、重症心不全患者の予後を改善させる両室ペーシング機能付きペースメーカも普及してきた。ホームモニタリング機能の登場により、自宅にいながらデバイス情報のチェックができるようになった。さらに、かつては禁忌とされていたMRI撮影が可能なデバイスも登場し、遂にはリードレスペースメーカの時代がすぐそばまで来ている。20世紀には夢の治療機器と思われていたものを実際に使用できる時代になった。しかし、医療機器の発達に伴い、使用する医療者側の専門分化も加速している。高度な機器を十分に理解し、使いこなすことができる技術者の存在が不可欠になってきた。まさに臨床工学技士の力の見せ所であろう。愛媛大学では不整脈診療の多くの領域で臨床工学技士が活躍している。カテーテルアブレーションにおいては、機器のセッティングに始まり、不整脈の誘発や解析を行い、デバイス治療の分野では、ホームモニタリングを含めたデバイス機器全般の管理を行っている。今や不整脈チームとして欠かせない戦力である。当院における実際の不整脈診療の現場を紹介しながら、不整脈診療の現状と今後の展望を述べたい。